

(様式2-2)

令和2年度いじめ・不登校・暴力行為等の未然防止事業(心の交流事業) 成果報告書

1 指定校・指定校群 (宇多津町立宇多津中学校)

2 実施の内容

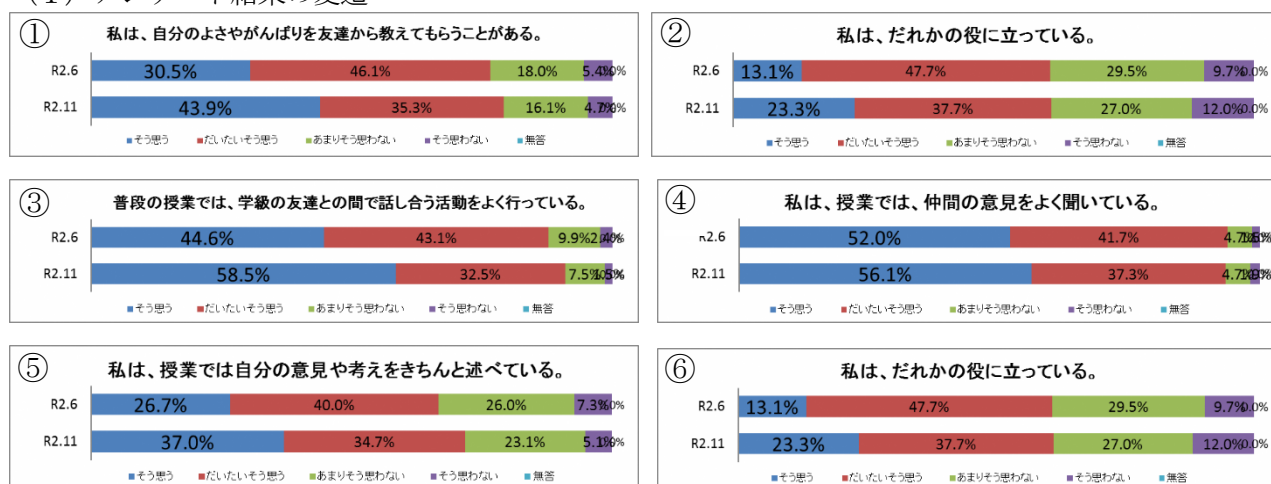
本校は毎年、体育祭でソーランと創作ダンスを行っている。前年度の2月頃にリーダーが立候補し、ダンスを創作する。リーダー達はソーランや自分たちが創作したダンスを全校生徒に教えていくことにより、友人や後輩達から認められているという感情を持つことができていた。しかし、今年度は体育祭が中止になり、ソーランや創作ダンスを同級生や後輩に指導することがなくなるとともに、それを披露する場もなくなってしまった。保健体育科教師は、リーダーたちの頑張りをどうにかしてみんなに知ってもらいたいという思いで、全校生徒に見てもらおう場を設定することにし、11月6日(金)に「保健体育学習発表会」として、ソーランと創作ダンスを披露する場を設けた。コロナウイルス感染拡大防止の観点から、1、2年生のみへの公開としたが、リーダーや演技を披露する3年生は、発表の場ができたということでお一層練習に取り組んだ。

当日は天候にも恵まれ、3年生男子はソーランを、女子は創作ダンスを披露した。演技終了後には、指導してもらった教師に対し感謝が伝えられた。また、このような発表の場を設定していただいたことにも感謝が伝えられた。

また、協同学習はコロナウイルス感染拡大防止の観点から1学期はほとんど実施できなかったが、2学期以降は、できる限りの対策を取りながら班単位で話し合う活動を実施してきた。その話し合い活動の中で、自分の考えを伝えることができ、それを班員が受け入れてくれているので、次も考えを伝えようという意識を持っている。

3 成果

(1) アンケート結果の変遷



今年度、学校全体で活動する機会はほとんどなかったが、学年や学級単位での活動により、周囲から認められているという感覚を持ったり、自信を持ったりした生徒が増加した。(①、②)

また、協同学習を実施していった結果、自分の意見が述べられるようになったり、仲間の意見をよく聞けるようになったりした生徒が増加するなど、自分の意見を仲間がしっかり聞いてくれるので次も頑張るって意見を述べようとする状況が見られる。(③、④、⑤)

「私は、だれかの役に立っている」という自己有用感(肯定感)も「そう思う」という強い肯定的意見の生徒が10%程度増えており、これからも一人一人の生徒のよさを見とりながら、頑張っているという自覚を持っている生徒を教師は評価することが大切である。(⑥)

(2) 自発的・自治的な交流活動における子どもの様子

1学期は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から様々な活動や行事が中止となった。総合体育大会や吹奏楽コンクールも中止となり、例年実施していた「総体・コンクール壮行会」も行われなかったことになった。しかし、交流大会が実施できることになり、2年生の生徒会役員から3年生を激励する場がほしいという希望が出た。応援団の希望者を募ると例年よりも多くの1、2年生が応募し、「3年生の激励会」を実施できた。応援は、体育館の2階の観客席からであったが、気持ちのこもったエールであった。

体育祭も中止となったが、「保健体育学習発表会」として、3年生の宇中ソーランとダンスを行った。朝のあいさつ運動も2学期後半から数名の生徒が自主的に始めた。

例年実施している全校生1人1回以上の「夏ボラ」は、コースを縮小するとともに、完全希望者制にしたが、10のコースにのべ155人が参加した。高齢者宅への弁当の配達や県道の清掃(さわやかロード)、校内の樹木や花の水やりなどに積極的に取り組む姿勢が見られた。短い夏季休業にもかかわらず自主的な活動の中で、自己有用感が育まれた。



3年生の激励会



宇中ソーラン



朝のあいさつ運動

(3) 総括

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からいろいろな制限があり、多くの活動や行事が中止になったり、変更になったりした。教師は、しっかりとコロナ対策をとったうえで、生徒に多様な活動を計画した。その中で、ある3年生から、『コロナでも何もできなかった3年生』ではなく、『コロナでもこれだけ頑張った3年生』と言われたい」という言葉を聞いた。この言葉に今の宇多津中学校の生徒の思いが象徴的に表されていると考える。

やれることを精一杯頑張ろうという生徒を、教師がしっかり賞賛していくとともに、周囲の生徒や家庭・地域にも認められる環境を作り、生徒の自己実現を図りたい。